

大きく一步前へ！

足羽川マラソンは、平成24年3月の第30回大会をもつて終了することになりました。しかし、さまざまな縁で足羽福祉会が主催することでとなり、名称も『足羽川ふれあいマラソン』に変更し、平成25年3月24日に第1回大会が開催されました。足羽学園からも8名の利用者が参加しました。

今回は、そのマラソン大会に参加された2名の利用者の方をご紹介します。

「私も走る！」

足羽学園では、毎年10月に行われる福井マラソン、そして3月に行われる足羽川マラソンに利用者の方が参加されています。参加するかどうかは、利用者の方にうかがつて決めています。今まで走ることが好き、体力に自信があるという利用者の方が主に参加されていました。

中津さんは、現在通われている特別支援学校のマラソン大会でも、同じく3kmを走っているようです。しかし、職員は実際にその様子を見たことがなかつたので、今回の参加について「3km走ることができるのだろうか？走り疲れて、途中で立ち止まってしまうのではないかだろうか？」と不安な気持ちを抱えていました。

ところが中津さん自身はやる気満々！特に本番が近づくにつれ、足羽学園の廊下や、体育館活動の時間に走るなど、徐々に準備をされていました。

マラソン大会当日、中津さんは早起きをして準備万端で「がんばります！」と気合が入っていました。また会場では、伴走ボランティアの方と合流すると「よろしくお

催することとなつたのを機に、利用者の方に参加を募つたところ、今まで参加されたことのない中津さんも「女の子みんなが走るなら、私も走ります！」と参加したい思いを伝えて来られました。

気持ちの変化

しかし、足羽福祉会が主催することとなつたのを機に、「何も3kmずっと走らないといけないのでない。途中で歩いたとしても、参加すること、やり遂げることに意義がある！」と職員の気持ちも変化していました。

自信に満ちて

そんな懸命な姿を見ていると「何も3kmずっと走らないといけないのでない。途中で歩いたとしても、参加すること、やり遂げることに意義がある！」と職員の気持ちも変化していました。



左：中津さん 気合十分！



最後までがんばりました！

いざスタートの合図が鳴り、15分程すると参加者の方が続々とゴールしてきました。今が今かと、中津さんのゴールを待つていると、伴走ボランティアの方に励まされながらゴールを目指す中津さんの姿が見えました。最後までやり遂げ、中津さんの顔は自信に満ちていました。そして「また走りたいです」と次回への意気込みを話してくださいました。

いました。

願いします」ときちゃんとありますをされていました。



ドキドキ…スタート直前！

一緒に・・・

一方、今回のマラソン大会では、飛山拓也さんとお母さまが一緒に参加されました。拓也さんがマラソン大会に参加することも初めてでしたが、保護者の方が一緒に

参加し、伴走をしてくださいました。そこで、お母さまにお話を聞かせていただきました。

Q. 今回、拓也さんが参加したきっかけについて教えてください。

A. 最近、拓也の体重が増えてきて、運動が必要かなと思ったのでいいきっかけだったんです。それ

と、今回から足羽福祉会が主催となつたので、障

がいのある方が他にも

参加するんだろうなと思つたのと、障がいへの

理解もしてもらいたいやすい

だろうと思つたので。一般のマラソン大会だから、参加していませんでしたね。

Q. 拓也さんだけではなく、お母さまも伴走として参加されたのは、どのような理由ですか？

A. 一緒に走った方が、拓也自身が落ち着いて走れるだろうと思ったからです。一緒に走れば、隣で声もかけてあげられるし。

それに、初めての人人がボ

Q. 当日の拓也さんの走りはいかがでしたか？

A. 中で歩いて、強歩のようになるときもありまし

たね（笑）。でも、隣で「ジュース飲めるよ」と声をかけると、今度は全速

力で走るので、走っては止まり、走っては止

まり、走っては止まりの繰り返しで、一緒に走る私が辛かったです（苦笑）。

マラソン大会当日のこと

を思い浮かべながら、笑顔でお話を聞かせてくださいました。

お母さまの拓也さん

に対する愛情が感じられ

る、そんなインタビューにな

りました。心が温まりました。



足羽川ふれあいマラソンは3kmという部門があること、なつたことで、今まで以上に利用者の方が積極的に参加できるようになりました。これからも、マラソンを介して人とのつながりを、そしてやり遂げたときの達成感や自信を感じられる場への参加の支援をしていきたい



拓也さんがリードして、ゴール！